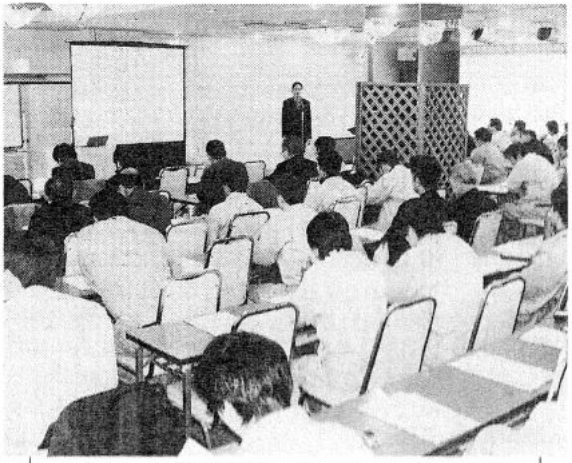
県コンクリート診断士会

ASR補修工など学ぶ

07年度構造物技術セミナー



セミナー開会にあたり、あいさつする石川会長

福井県コンクリート診断士会（石川裕夏会長）と財団法人ふくい産業支援センターは18日、県職員会館で「07年度コンクリート構造物の診断技術セミナー」を開き、アルカリ骨材反応（ASR）に対処する補修工法などを学んだ。

セミナーには会員ら約120人が出席。冒頭、石川会長が「それぞれ見識を深め、有意義なセミナーにしてほしい」とあいさつ。続いて金沢大学大学院の久保善司准教授が「ASR劣化構造物の劣化事例とその対策」と題して講演した。

久保准教授は、ASR劣化について措置基準の数値化や将来予想が難しいとし、対処法が確立していない点を強調。個別事例ごとに対応を迫られるとした。最近の試みとしてFRPシートの活用事例を紹介したほか、ASR以外の劣化も抑制する水処理工の効果を指摘。抜本的解決が期待されるリチウム系注入工法では現場の有効性が不明との認識を示した。